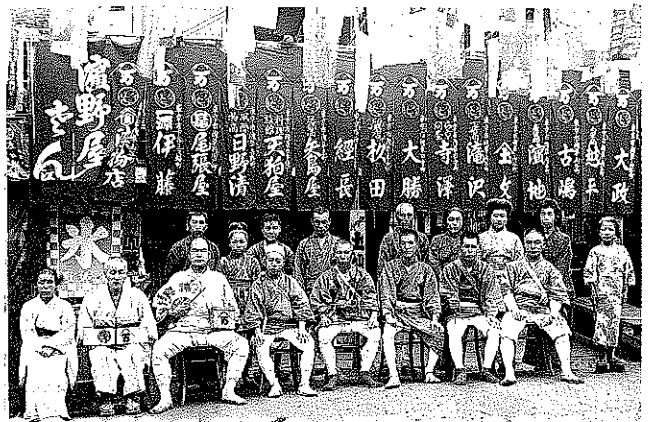
大月は江戸・明治より富士登山北玄関口

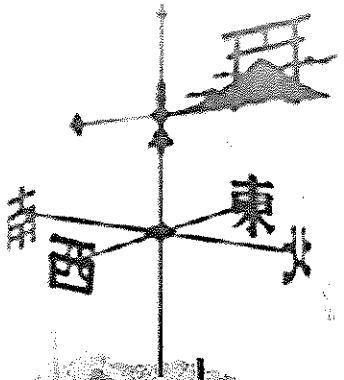
中央鉄道本線・大月駅開業(1902年明治35年10月1日)により大月駅周辺の町形勢が確立する。この頃より富士講信仰者が鉄道を利用し大月駅周辺の宿場に一泊し,(8軒程点在)宿に木札や幟旗(写真左上・中央)などに名を刻み証を残した.大正10年7月までは馬車鉄道(写真左下)を利用した、その後、大正14年の小冊子には[富士登山と五湖巡りは中央線大月駅よりする。汽車を捨てて自動車又は、富士電機軌道(富士急行)の便により……] と記されている。

星旅行社企画の富士講に参加した人達の出発前の記念撮影風景 大正３年８月１５日

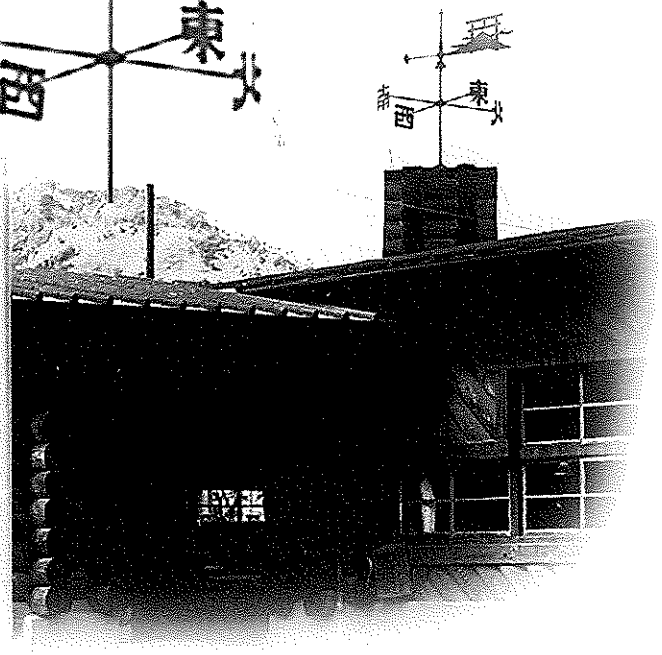


浅草問屋街旦那衆ご一行様と記念撮影 大正時代

駅舎上、風見鶏(風見富士)は昭和38年頃まで大月駅に来訪する皆様に富士山の方向を指示しておりました。



今、風見鶏復活に向け協議中です。

大月駅前通りと広場、馬車鉄道は大正１０年７月まで営業

写真右
大月駅舎(二代目)
昭和3年竣工